

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

研究科・専攻	大学院 電気通信学研究科 人間コミュニケーション学専攻 博士前期課程		
氏 名	横井 隼	学籍番号	0736032
論 文 題 目	問題解決学習におけるマンガ教材の可能性 ー小学校理科教育への導入を考えるー		
要 旨	<p><u>・研究背景</u></p> <p>文部科学省は、平成 23 年度の学習指導要領の改訂に伴い、「生きる力」を育む手立ての見直しを図っている。改訂の背景として、OECD の PISA 調査などから、理系教科への学習意欲の低下や、思考力や表現力等を問う問題、知識・技能を活用する問題に対する課題が挙げられている。ここでは、従来の系統学習に合わせた知識獲得を目的とする教材に加え、思考力や課題解決能力を十分に育む手立てを確立する必要がある。</p> <p>本研究では、先行研究により評価されたマンガ教材、また職業指導手法として近年高い評価を得ているマンガ教材を参考に、小学校理科教育への導入について考察する。</p> <p>わが国において、マンガは若者社会において強い影響力を持っており、教育においても、認識は変化してきている。近年では、教科書にイラストが取り入れられる「教科書のマンガ化」が進んできており、マンガ教材の効果測定に関する多くの研究からは、学習内容の深い理解や保持といった優位性が示されている。しかし、マンガ教材の効果が示されてから現在に至るまで、マンガ教材に関する認識の変化はあまり見られず、テキストとしての位置を確立してはいない。マンガ教材を用いた指導法が確立していない今、授業への導入を考察する必要がある。また、系統学習における知識の教授を目的としたマンガ教材を、問題解決学習の視点から考察することで、現在の教育観に沿った指導が提案できるように思われる。</p> <p>本研究では、マンガを教育的要素や近年における教育の流れとの関係から読み解くことで、主体的・実践的な問題解決学習を促す副教材としての可能性を検討したい。</p> <p><u>・研究目的</u></p> <p>マンガ教材が、テキストとしての位置を確立していない要因を探るとともに、『生きる力』を育む「問題解決学習」を促進するマンガ教材の活用法について、小学校高学年における理科教育を中心に考察する。</p> <p><u>・研究方法</u></p> <p>関連する文献、先行研究をもとに、マンガ教材の特性、効果を確認する。また、問題解決学習へのアプローチを把握することで、小学校理科教育への導入を示す。</p> <p>なお、本研究ではマンガ教材導入を、小学校高学年での理科教育に照準し考察する。理由は、次の 2 点である。</p> <ul style="list-style-type: none">・言語教育においては文章読解能力を育成する必要があるため、マンガ教材の扱いが難しい・学習指導要領の改訂に伴い、理科における「問題解決能力」を重視する姿勢が強まったため <p>なお、特殊な内容を啓蒙的に理解させる場合に有効であるという見解から、小学校第 5 学年を対象とした。</p> <p><u>・結論</u></p> <p>教育におけるマンガ教材の位置づけに変化が見られない理由として、次の点が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none">・学習効果の認識不足・必要性がない・教科書として使えない・使い方が分からない <p>先行研究で多く行われている比較検証では、マンガ教材は教科書の代替物としてしか捉えられず、必要性に欠く。そのため、マンガ独自の有用性を示す必要がある。</p> <p>まず、結論の一つとして、マンガの持つアイ・キャッチャーとしての性格や、言語と映像を含んだ表現形式が、記憶保持や内容理解に有効であることを示すことができた。つまり、マンガは教育効果を見込める表示形式であるという結論である。</p> <p>次に、ナラティブ・アプローチを用いた問題解決学習として、マンガ独自の教育手法が得られた。マンガを使用することにより、興味・関心の喚起、学習内容と生活概念とを結びつけるという効果が期待できる。</p> <p>また、ピアジェの唱えた、「科学的概念は、生活的概念の自然的発達のなかでこそ形成される」という見解を考慮すると、教授内容や概念を押しつける教育に比べ、科学的な思考の育成に適したものであるということになる。つまり、「科学的な思考」を育むことに重点を置く今後の小学校理科教育において、適した指導法であると言える。また、具体的操作期として自然法則を学ぶ単元が現れる時期における実践例を示すことができたのは、本研究の成果の一つと言えるだろう。</p>		